

3
預言者たち
聖徒伝 137

「逃れられない 追跡者なる神」

ヨナ書1～2節

ヨナの復活・主が与えた希望のしるし

アウトライン

0. イントロダクション

I. 逃走の果てに ヨナ書1章

II. ヨナの祈り ヨナ書2章

III. まとめと適用

逃れようのない追跡者

愛と義の神に立ち返ろう



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

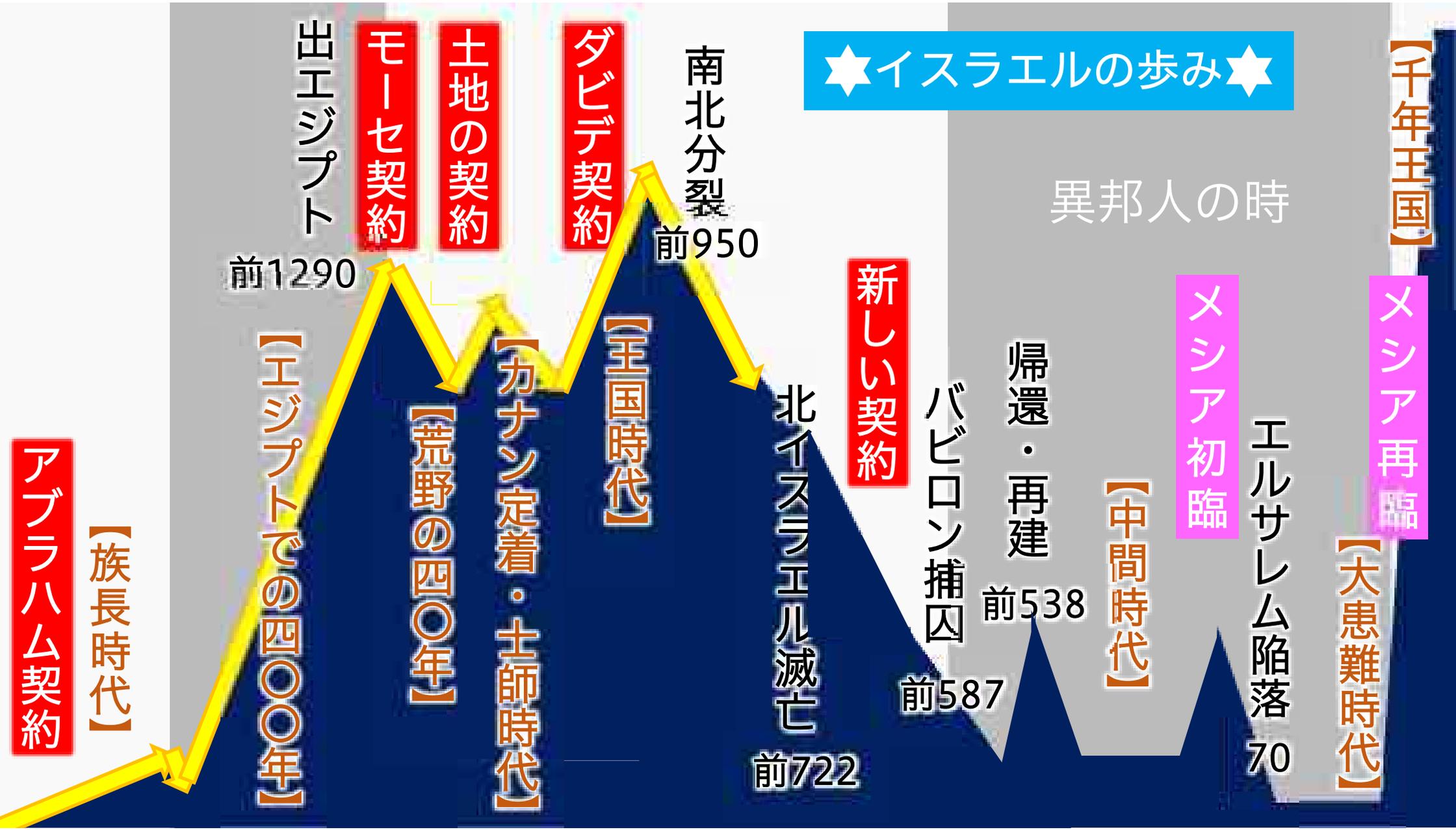
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

新しい契約

メシア初臨

メシア再臨

アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡

バビロン捕囚

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落

【大患難時代】

【千年王国】

南北時代は、預言者の時代

■ **預言者**とは、「**神の言葉を預かり、民に告げる者**」

→ **予見者**、**神の人**とも呼ばれる。…アブラハム、モーセも預言者。

■ 最初に**預言者**を組織化したのが、サムエルだった。(1サム10章)

ダビデが組織した奏楽隊は、**預言者**集団でもあった。(1歴25:1)

■ **預言者**たちは、神の律法を学び、人々に教えた。

危機の時代には、時に、**神の直接の言葉(預言)**を王や民に告げた。

■ 南北時代、エリヤは残された信仰者たちを集め、**預言者学校**を建設。

多くの預言者が、王と民へ派遣。律法を教え、神の警告を告げた。

膨大な預言が記録された背後に、組織された預言者たちの存在が!!

ヨナ書とは？

- **著者** … **ヨナ** = “鳩” 父はアミタイ = “真理”
→ 真理に従う素直さ。従順さを示す。
- **出身** … ガテ・ヘフェル(ナザレのすぐ隣!!)
- **時代** … ヤロブアム2世の時代の
最盛期の北王国・イスラエル
- **背景** … 南北時代の絶頂期、バブルのただ中。
一方、主が告げた滅びの時は迫り、
北方から**アッシリア帝国**の脅威が!!



寓話ではない
歴史書である

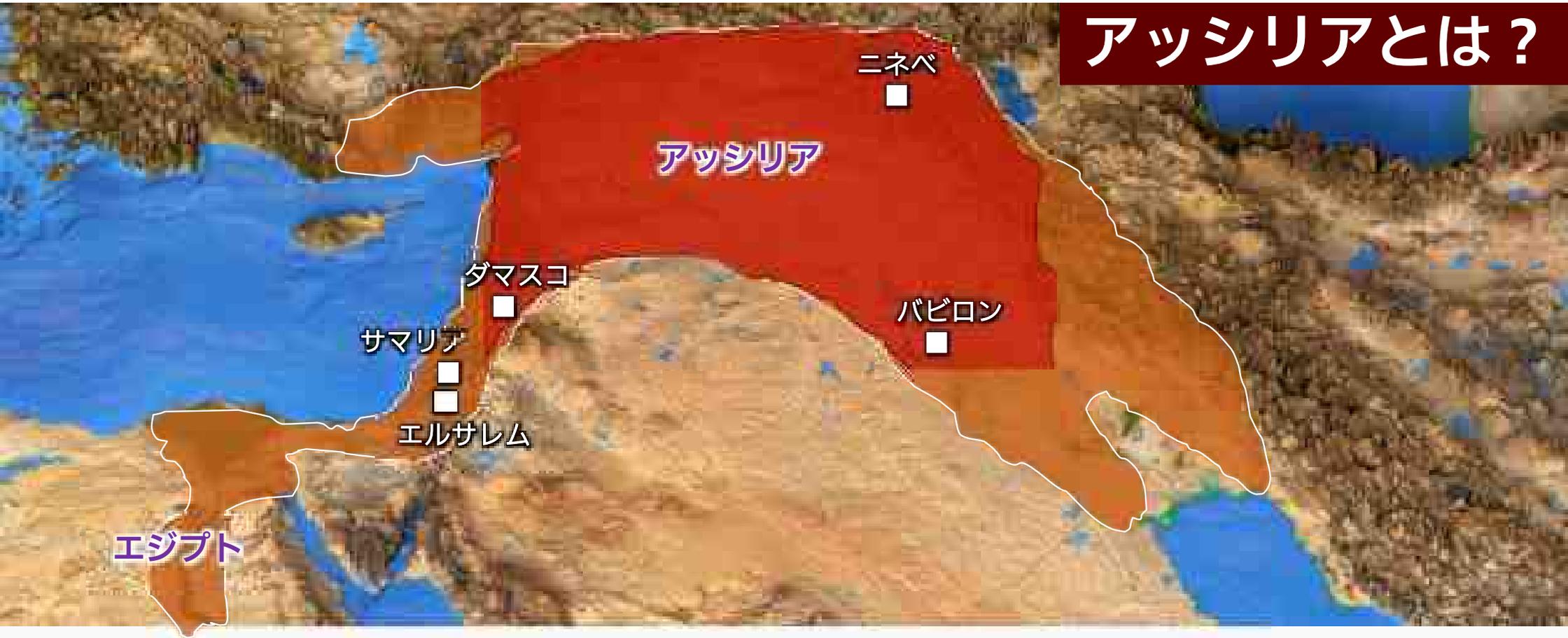
列王記に記された預言者ヨナ

■列王記 II 14:25 彼(ヤロブアム II 世)は、レボ・ハマテから アラバの海(死海)までイスラエルの領土を回復した。それは、イスラエルの神、【主】が、そのしもべ、ガテ・ヘフェル出身の預言者、**アミタイの子ヨナ**を通して語られたことばのとおりであった。

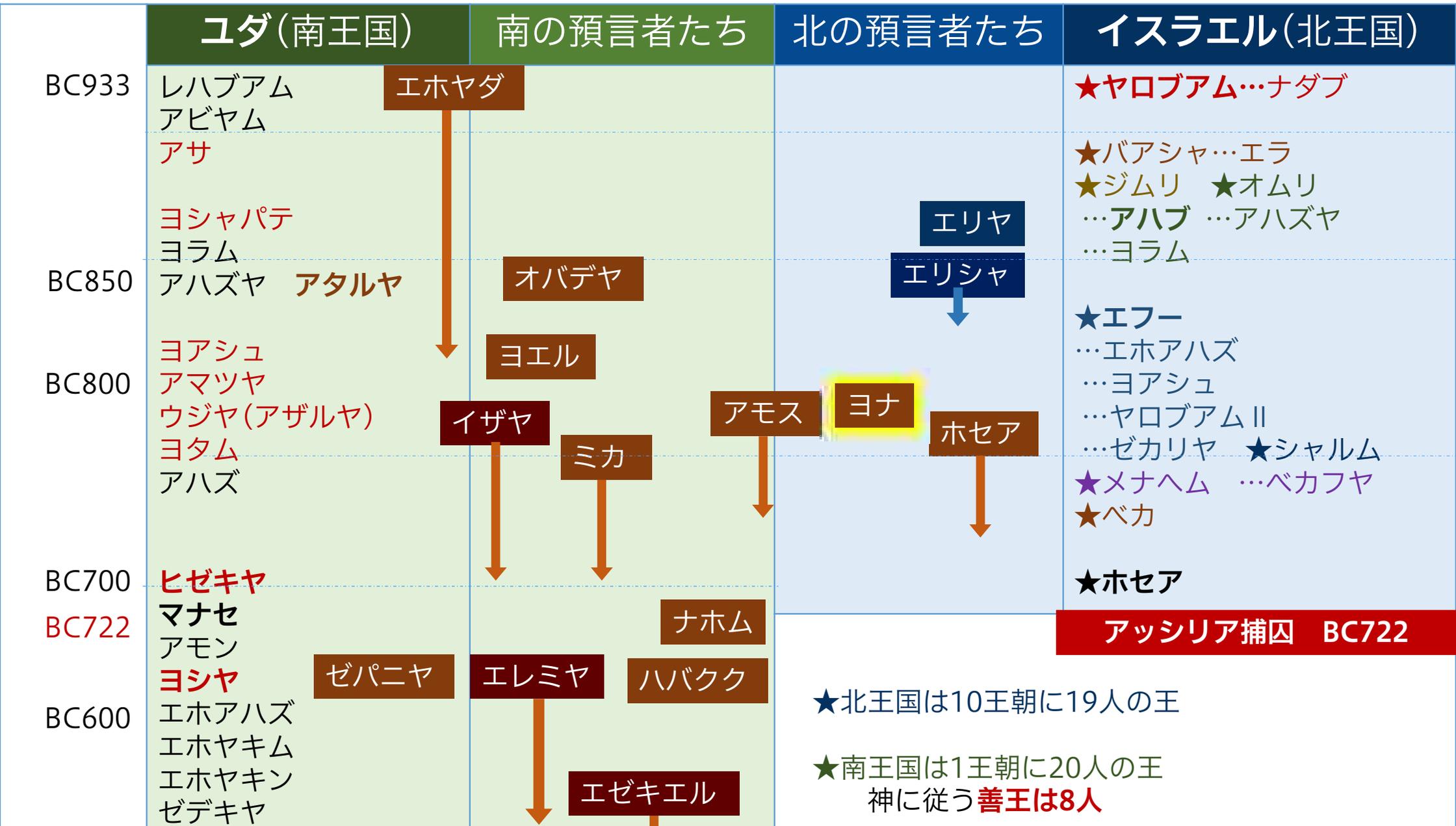
- 主の忠実なしもべ、預言者だったヨナは、ヤロブアム2世時代の繁栄を予告していた。
 - ➔南北あわせてソロモン時代にも匹敵!!
 - ➔ヨナは実績を積んだベテラン預言者



アッシリアとは？



- 古代から存在。BC10～7世紀の**新アッシリア**後期に世界帝国に。
- BC722には、サマリアを滅ぼす。(アッシリア捕囚)
- 最盛期にはエジプトまで支配。➔BC609 バビロニアより滅亡

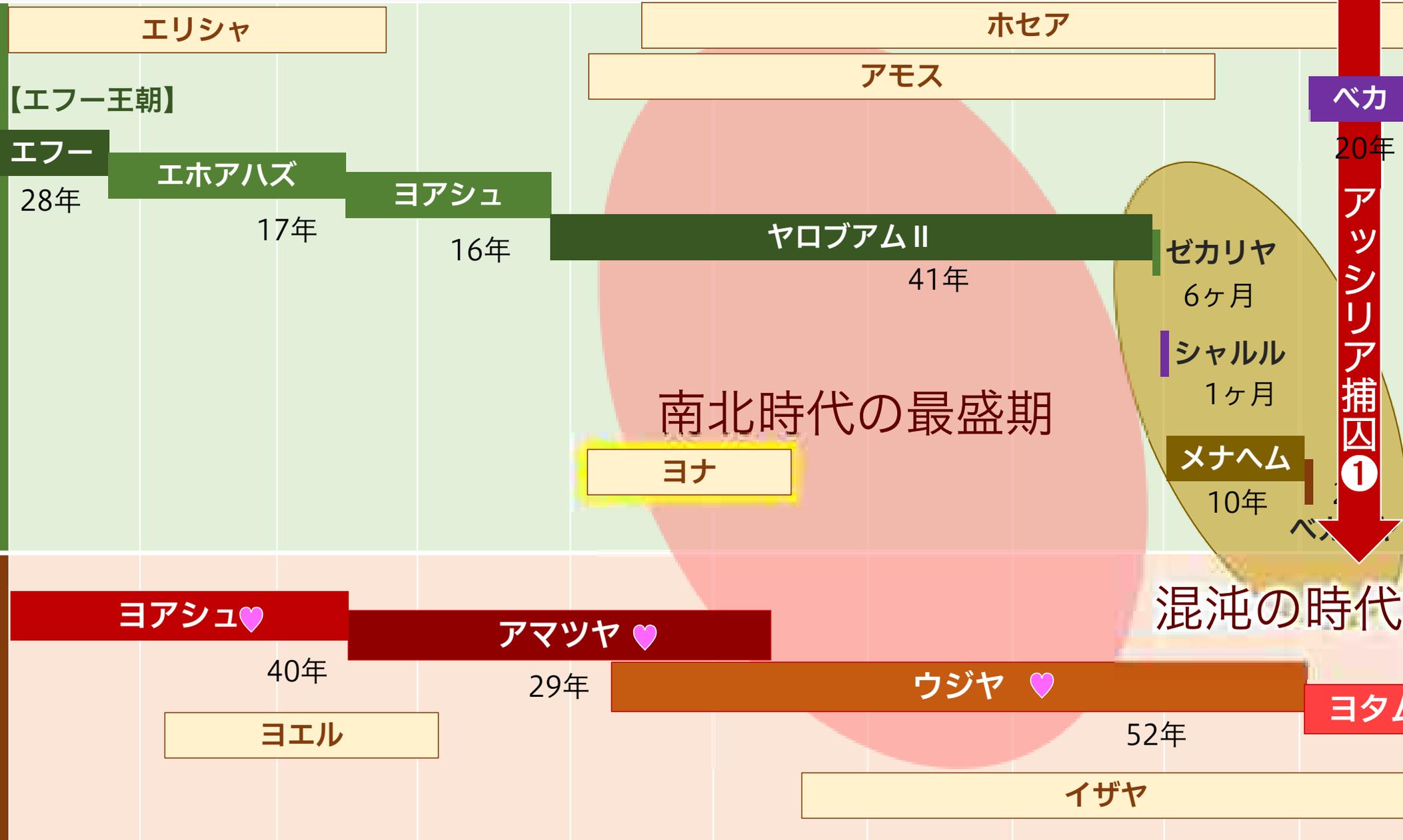


★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

北王国 イスラエル

南王国 ユダ



南北時代の最盛期

混沌の時代

ベカ 20年
アッシリア捕囚①

Ⅰ. 逃走の果てに

ヨナ書1章



【主の命令】 ヨナ1:1~2

アミタイの子ヨナに、次のような【主】のことばがあった。
立ってあの大きな都ニネベに行き、これに向かって叫べ。
彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。」

【主の御顔を避けて】 ヨナ1:3

しかし、ヨナは立って、【主】の御顔を避けてタルシシュ*へ逃れようとした。彼はヤッファ*に下り、タルシシュ行きの船を見つけると、船賃を払ってそれに乗込み、【主】の御顔を避けて*、人々と一緒にタルシシュへ行こうとした。

*西の果て(スペイン) *ペテロも滞在した港町。

→最盛期で西方との交易も盛んだっただろう。

→ニネベとは完全に真逆に向かったヨナ

*最初に、“主の御顔を避けた”のは？

→罪を犯したアダムとエバ。

言い逃れようのない
神への背き



主の御顔を避けたアダムとエバ

創世記3:6～8

そこで、女が見ると、その木は食べるのに良さそうで、目に慕わしく、またその木は賢くしてくれそうで好ましかった。それで、女はその実を取って食べ、ともにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。

そよ風の吹くころ、彼らは、神である【主】が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて、園の木の中に身を隠した。

ヨナはなぜ、主の命令に背いたのか？

■ 同時代の預言者ホセアの預言 ホセア書10:5～7

サマリアの住民は、ベテ・アベンの子牛のことでおののく。その民はそのことで喪に服し、偶像に仕える祭司たち、その栄光を喜んでいた者たちも喪に服す。栄光が子牛から去ったからだ。

それは**アッシリア**に持ち去られ、大王への贈り物となる。エフライムは恥を受け、イスラエルは自分のはかりごとで恥を見る。

サマリアは滅び失せ、その王は水の面の木片のようだ。

■ アッシリアによる北王国滅亡の預言を、ヨナも知っていた!!

➡破滅をもたらすアッシリアを悔い改めに導けとは!!

アッシリアのニネベ・流血の町

ナホム書3:1~4

わざわざいだ、流血の町。すべては偽りで略奪に満ち、強奪はやまない。

むちの音。車輪の響き。駆ける馬。飛び跳ねる戦車。

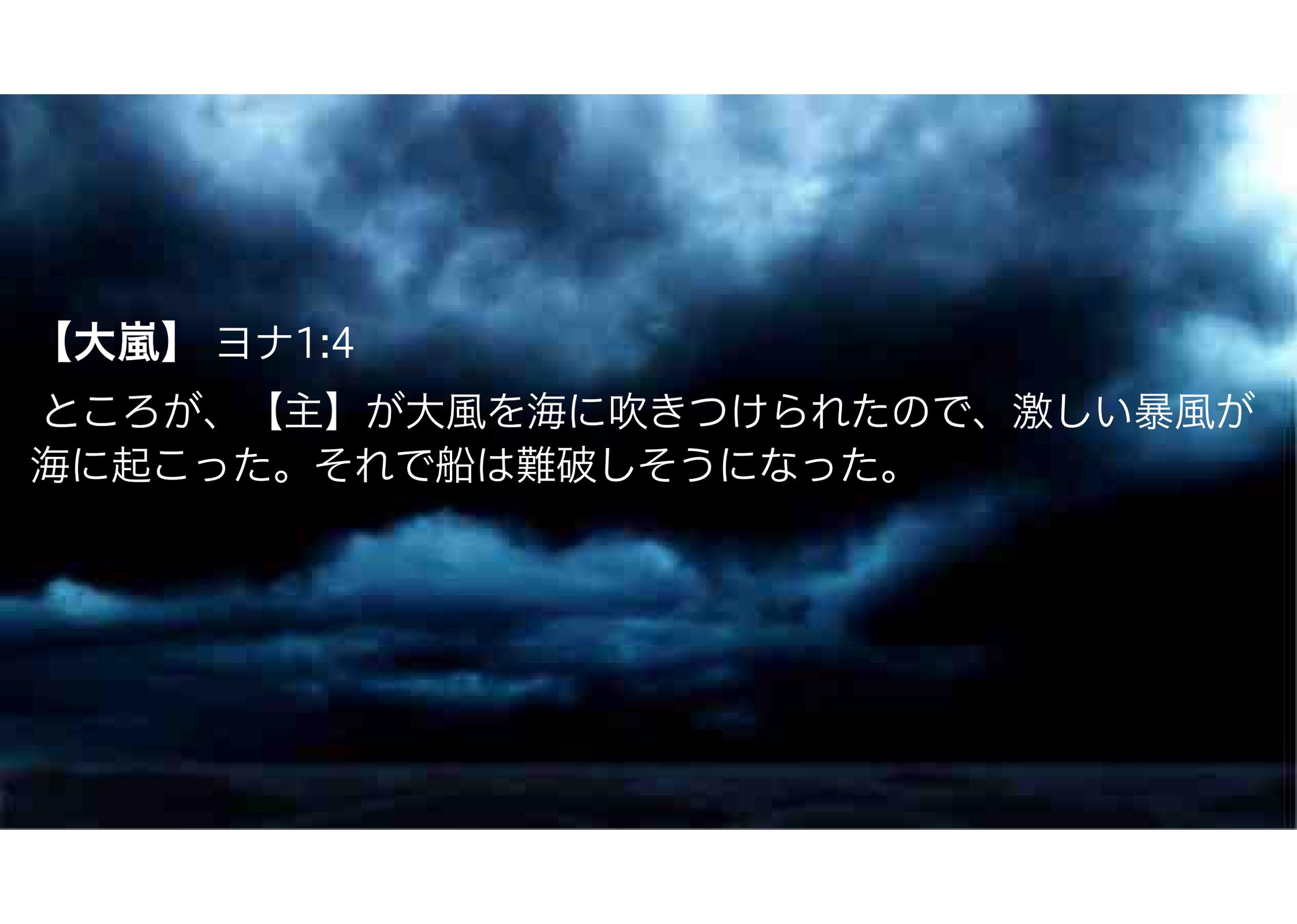
突進する騎兵。剣のきらめき。槍のひらめき。おびただしい戦死者。

山なす屍。数えきれない死体。死体に人はつまずく。

これは、遊女の淫行の数々に、呪術を行う女の麗しさによるものだ。

彼女はその淫行によって国々を、その呪術によって諸部族を売り渡した。

強大な軍事力で破壊を重ねた、流血の暴虐の町がニネベ



【大嵐】 ヨナ1:4

ところが、【主】が大風を海に吹きつけられたので、激しい暴風が海に起こった。それで船は難破しそうになった。

【起こされたヨナ】 ヨナ1:5～6

水夫たちは恐れて、それぞれ自分の神に向かって叫んだ。そして、船を軽くしようと船の積荷を海に投げ捨てた。一方、ヨナは船底に下りていて、横になってぐっすり寝入っていた*。

すると船長が近づいて来て、彼に言った。

「いったいどうしたのか。眠りこけているとは。起きて、あなたの神に願いなさい。もしかすると、その神が私たちに心を留め、私たちは滅びないですむかもしれない。」

*神への強い拒絶を示すものか。例) TDL体験



【くじ】 ヨナ1:7~8

人々は互いに言った。「さあ、だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったのか、くじによって知ろう*。」彼らがくじを引くと、そのくじはヨナに当たった。

そこで彼らはヨナに言った。「話してくれ。だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったのか。あなたの仕事は何か*。どこから来たのか。国はどこか。どの民の者か。」

*くじ = 神託で答えを求めたということ。

*主の預言者だと答えただろう。



【真相を明かすヨナ】 ヨナ1:9~10

ヨナは彼らに言った。「私はヘブル人*です。私は、海と陸を造られた天の神、【主】を恐れる者です。」

人々は非常に恐れて、彼に「何とということをしたのか」と言った。人々は、ヨナが彼らに告げたことによって、彼が【主】の御顔を避けて逃れようとしていることを知ったからである。

*“流浪の民”を強調する名。異邦人からの蔑称。

■イスラエルに繁栄をもたらす主なる神を、見聞きしてはいた船乗りたち。未体験の大嵐をもって、主の恐ろしさを味わわされ、ヨナの罪の重さを知った。



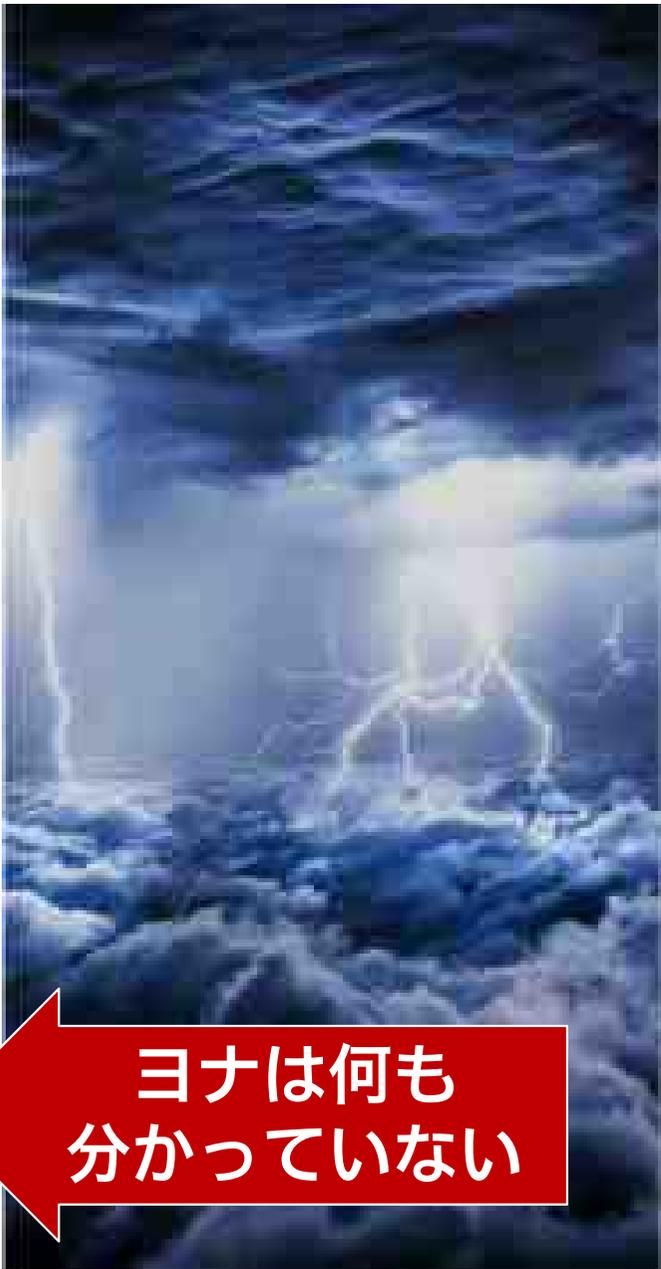
アダム以来の
根源的罪

【ヨナの応答】 ヨナ1:11~12

彼らはヨナに言った。「私たちのために海が静まるようにするには、あなたをどうすればよいのか。」海がますます荒れてきたからである。

ヨナは彼らに言った。「私を抱え上げて、海に投げ込みなさい。そうすれば、海はあなたがたのために静かになるでしょう。私は分かっています*。この激しい暴風は、私のせいであなたがたを襲ったのです。」

*裁きの原因は分かっている？ 理解と行動の不一致を、分かっていると聖書は言わない。



ヨナは何も
分かっている

【必死の人々】 ヨナ1:13

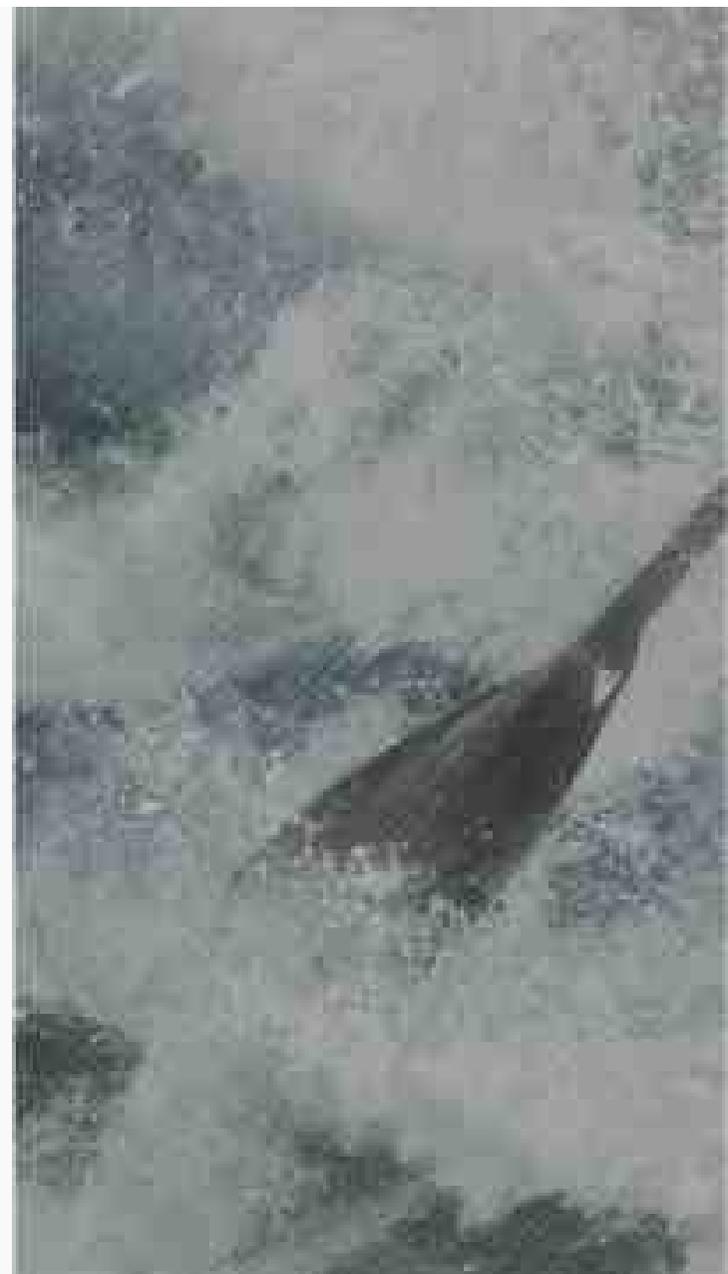
それでも*人々は船を陸に戻そうと漕いだが、
そうすることはできなかった。海がますます
彼らに向かって荒れてきた*からである。

*ヨナの提案を実行できなかった人々。

ますます主への恐れを強くしたか？

*神の意志を知って従わないなら？

➡人々の信仰が問われることに!!



【人々の叫び】 ヨナ1:14

そこで彼らは【主】に向かって叫んだ。「ああ、
【主】よ*。どうか、この男のいのちのことで、私たちが滅びることのないようにしてください。咎なき者の血の報いを、私たちの上に下さないでください*。
【主】よ*。あなたは、望まれたとおりになされたのですから。」

*異邦人が、主を恐れ、主に赦しを求めている。

➡人々は主の厳しい命令に従うことを決断した!!

*主に背いたヨナは、明確に罪も咎も負っている。

➡史上唯一の“咎なき者”は、メシアだけ。



極限状況が導く
究極の信仰告白



ヨナ1:15

こうして、彼らはヨナを抱え上げ、海に投げ込んだ。
すると激しい怒りがやんで、海は凪になった。

【主を礼拝した人々】 ヨナ1:16~17

人々は非常に【主】を恐れ、【主】にいけにえを献げて誓願を立てた*。

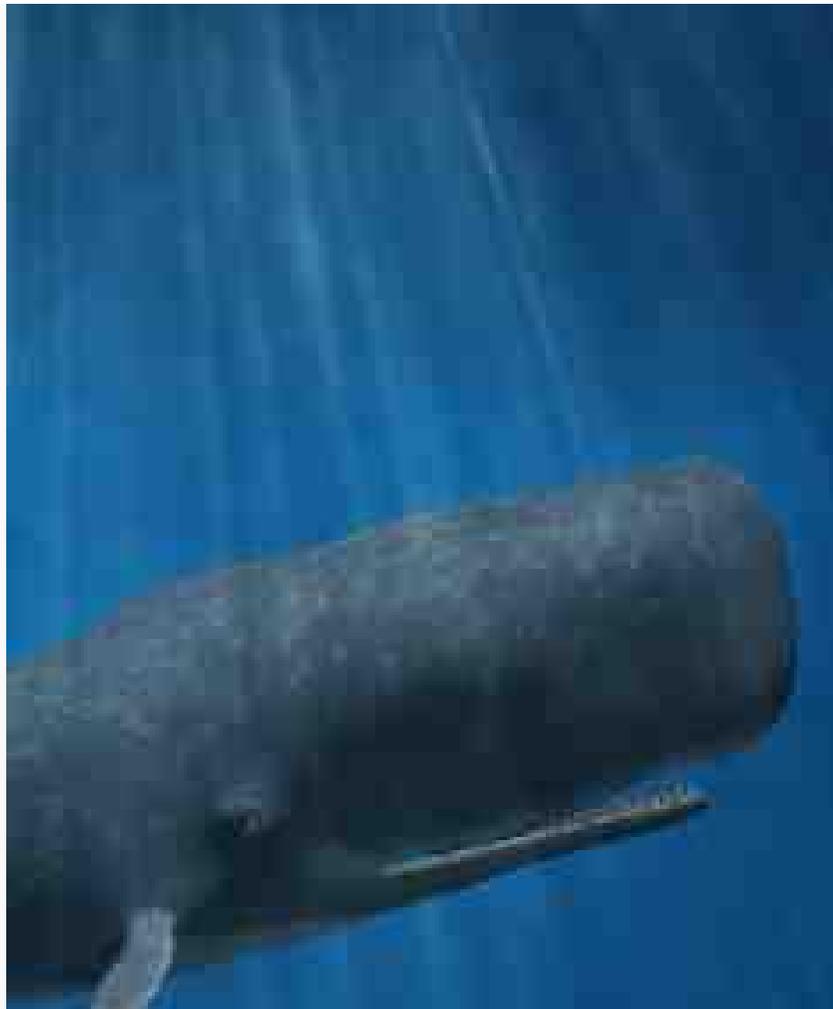
【主】は大きな魚*を備えて、ヨナを呑み込ませた。ヨナは三日三晩*、魚の腹の中にいた。

*北王国が、まさに拒み続けてきたこと。

➔ヨナが預言を告げてきた神の民以上!!

*クジラ？ サメ？ マッコウクジラ？

*二泊三日。足かけ三日。



悔い改めた人々の一方
死のよみに下ったヨナ

II. ヨナの祈り

ヨナ書2章

【よみからの叫び】 ヨナ2:1~2

ヨナは魚の腹の中から、自分の神、【主】に祈った。

「苦しみの中から、私は【主】に叫びました。すると主は、私に答えてくださいました。よみ*の腹から私が叫び求めると、あなたは私の声を聞いてくださいました。」

*シェオール …陰府(よみ)。隔絶された死の世界。

➡海で溺れ、魚に吞まれ、ヨナは死んだ。

■ヨナの祈りは、死の淵からの祈りであり、死と滅びからの復活を示す確かな証言。



【ヨナの受けた神の裁き】 ヨナ2:3

あなたは私を深いところに、海の真中に投げ込まれました*。潮の流れが私を囲み、あなたの波、あなたの大波がみな、私の上を越えて行きました。

*海は、“異邦人世界”“神の裁き”の象徴でもある。

➔主に背いた預言者ヨナは、厳しい裁きを受けた。

「マルコ 9:42 また、わたしを信じるこの小さい者たちの一人をつまづかせる者は、むしろ、大きな石臼を首に結び付けられて、海に投げ込まれてしまうほうがよいのです。」



信仰者への
裁きとしては
極めつけのもの

【たった一つのヨナの願い】 ヨナ2:4

私は言いました。『私は御目の前から追われました*。ただ、もう一度、私はあなたの聖なる宮を仰ぎ見たい*のです。』

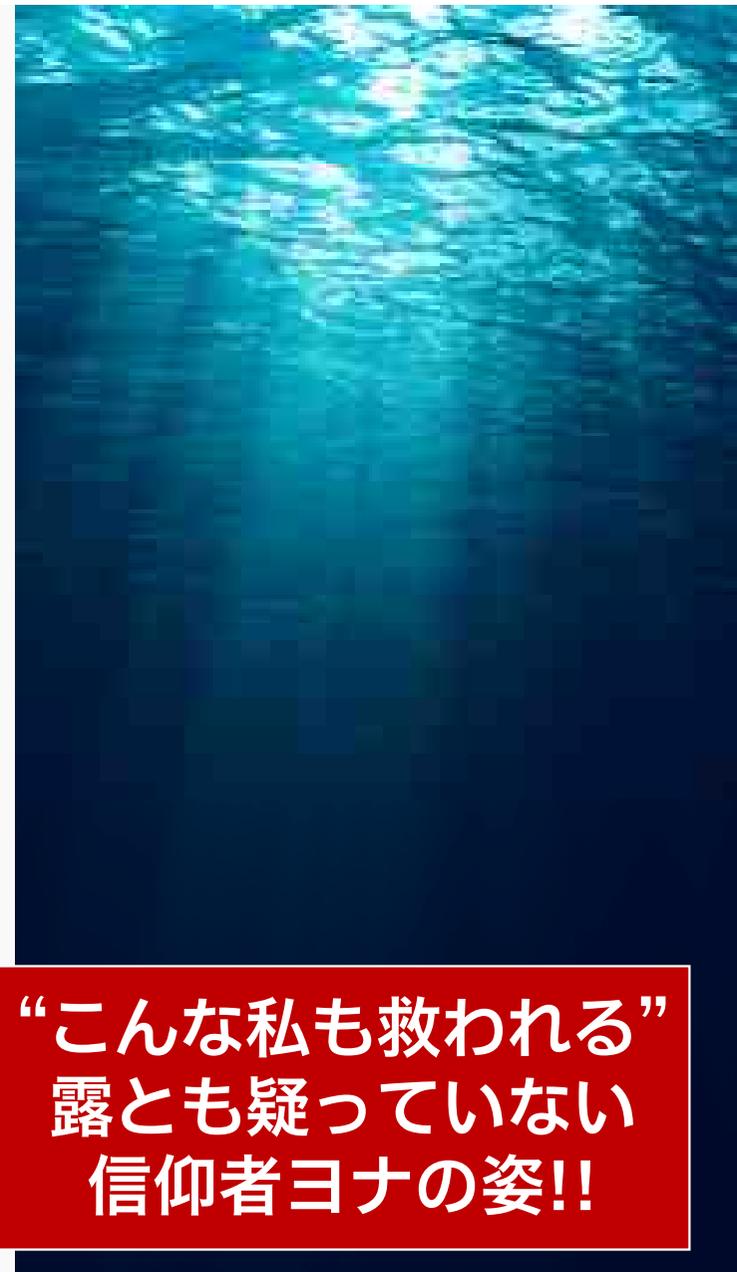
*自らの背きの罪に対する神の裁きを認めた。

*罪の赦し、神との関係の回復を求めた。

■ヨナは、己の罪を認め、悔い改めて
主の救いを求めた。

→ “恵みにより、信仰によって救われる”
義と愛の神への全き信頼のゆえに。

“こんな私も救われる”
露とも疑っていない
信仰者ヨナの姿!!



【死と滅びの底から】 ヨナ2:5~6

水は私を取り巻き、喉にまで至り、大いなる水が私を囲み、海草は頭に絡みつきました。

私は山々の根元*まで下り、地のかんぬき*は、私のうしろで永遠に下ろされました。しかし、私の神、【主】よ。あなたは私のいのちを滅びの穴*から引き上げてくださいました。

*地の底。地上世界と死の世界との境界。

*命ある世界とは隔絶された。

*誰もが陥る、逃れられない永遠の滅びから、主がヨナを救い出してくださった。



【ヨナの神、ヨナの偶像】 ヨナ2:7~8

私のたましいが私のうちで衰え果てたとき、私は【主】を思い出しました*。私の祈りはあなたに、あなたの聖なる宮に届きました。

空しい偶像に心を留める者*は、自分への恵みを捨て去ります。

*死の淵で、主を覚え、主に祈り、祈りはすぐに主に届いた。すでに御手の内にあったから。

*ヨナの罪の告白。ヨナが心に留めた偶像とは？

→自分の思い、判断。

主の前に手放すべきは、このわたし



【救いは主のもの】 ヨナ2:9～10

しかし私は、感謝の声をあげて、あなたにいけにえを献げ、私の誓いを果たします*。救いは【主】のもので*。」

【主】は魚に命じて、ヨナを陸地に吐き出させた。

*献身・自らを主に献げる。主に従う人生の誓い。

➡献身から始まったはずの信仰者としての使命。

主に献げる人生に立ち返ったヨナの悔い改め。

*救いは、すべて主の手による。方法も手段も。

➡人できるのは、ただ信頼して受け取るだけ。





IV. まとめと適用

逃れのようなない追跡者
義と愛の神に立ち返ろう

ヨナの罪と悔い改め

■ 預言者として活動し、北王国の最盛期も告げていたヨナ。
主の使命は、滅亡をもたらす侵略者ニネベに神の言葉を告げること。

■ ヨナは、明確に主に背き、真逆の方向に逃走した。
自らの思いに固執する、傲慢と不信仰がヨナの偶像だった。
神の裁きの嵐の中でも、ヨナの心は閉ざされたままだった。

■ しかし、背きのヨナを通してすら、主は異邦人を救いに導かれた。

■ ヨナは、主によって海に投げ込まれた。
海は神なき世界の裁きの象徴。ヨナに厳しい懲らしめが与えられた。

ヨナの救い

- 滅びの淵で、ヨナに再び主を求める思いが与えられた。
- ヨナは、神の裁きと罪を認め、ただ主を求め、仰ぎ見た。ただ恵みと信仰によって、救いをもたらす主に信頼した。
- 主の一方的な恵みによって、ヨナは永遠の滅びから救い出された。ヨナは、救い出されたその身を、主に献げることが心に刻んだ。
- 救いとは、わたしのすべてが、永遠に主のものになったということ。主を信じ、信頼するとは、主に従い、献げることにはかならない。

ただ主に信頼すると決めた、最初の信仰告白の誓いを主の前に果たそう!!

不信仰のヨナを通して示されたメシア

- 極限状態で、思いがけない信仰告白へと導かれた人々とヨナ。
- 異邦人の主への祈り
「咎なき者の血の報いを、私たちの上に下さないでください。1:14」
- 祈りの答えとして与えられた、ヨナの確信。
「救いは主のものです。2:9」
- ヨナは、死に、よみに下り、三日目に復活した。
 - ➔ ヨナの死と復活は、罪なきメシア、主イエスの復活を示すもの。
主イエスご自身が、復活を「ヨナのしるし」と呼んでいる。

主イエスが教えられたヨナのしるし

マタイ16:1~4

パリサイ人たちやサドカイ人たちが、イエスを試そうと近づいて来て、天からのしるしを見せてほしいと求めた。

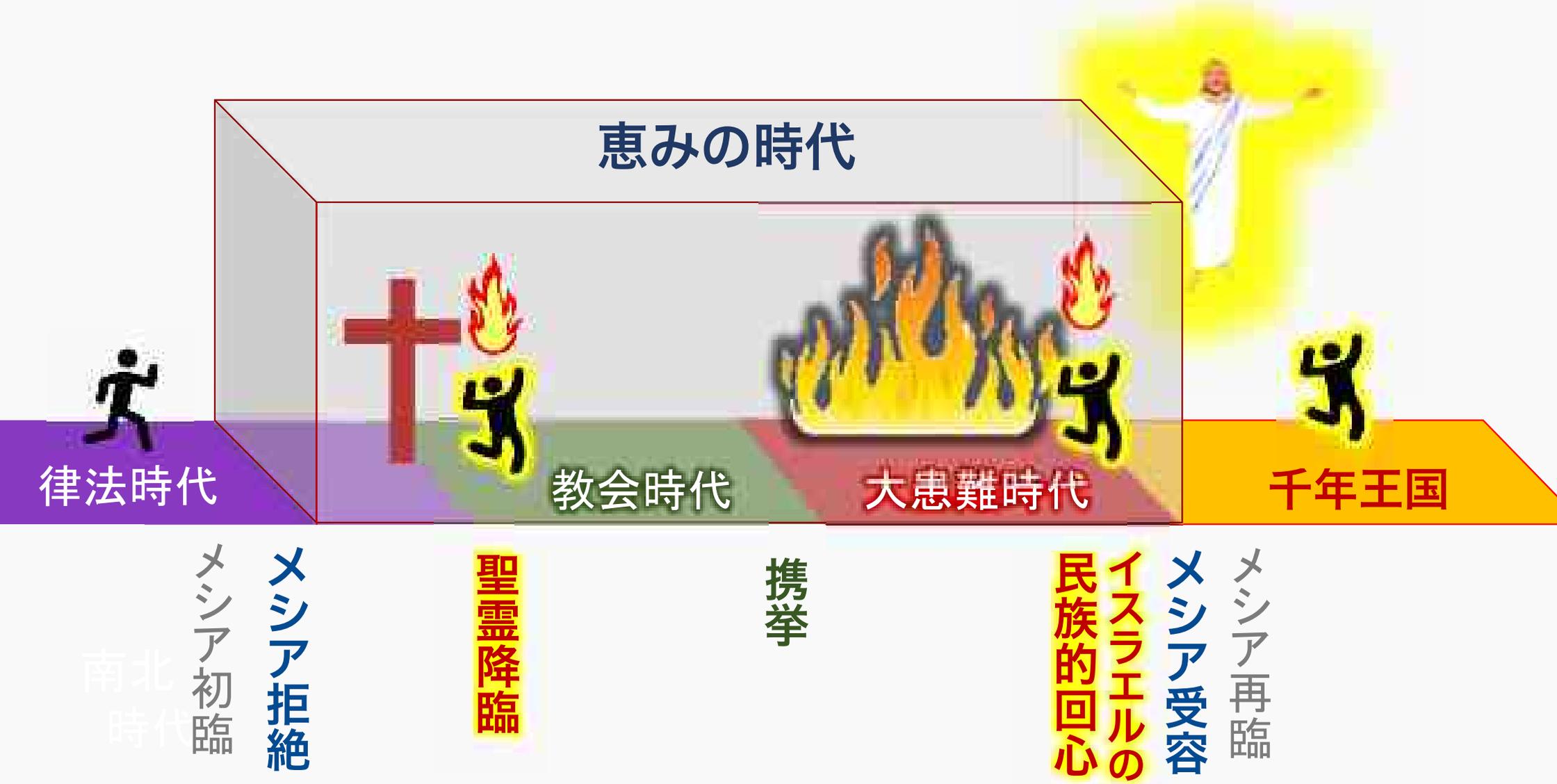
イエスは彼らに答えられた。「夕方になると、あなたがたは『夕焼けだから晴れる』と言い、朝には『朝焼けでどんよりしているから、今日は荒れ模様だ』と言います。空模様を見分けることを知っていながら、時のしるしを見分けることはできないのですか。

悪い、姦淫の時代はしるしを求めます。しかし、**ヨナのしるし**のほかには、しるしは与えられません。」こうしてイエスは彼らを残して去って行かれた。

恵みの時代の「ヨナのおしるし」

- イスラエルは、約束されたメシア、イエスを民族的に拒絶した。
→ 悪霊による偽メシアと断定(ベルゼブル論争・マタイ12:24)
- メシアを拒絶したイスラエルは、世の終わりにメシアの受容に至る。
この時代は、「悪い姦淫の時代」であり、同時に「恵みの時代」。
→ イスラエルは背きを重ね、教会にも偽りが入り込むが、
異邦人を中心に、福音を信じて救われる者が起こされていく。
- この恵みの時代のメシアのおしるしが、「ヨナのおしるし」= 復活。
主イエスの十字架の死と復活を信じて、恵みによって救われる。

【恵みの時代・ヨナのおしるし・復活】



ヨナの背きと悔い改めに示されたイスラエルの運命

- 主に従う預言者でありながら主の命令に明確に背いたヨナ。
 - ➔ ヨナの罪に言い逃れの余地はまったくない。
- 裁かれて死に、よみに堕ちたヨナを主が回心に導き、救われた。
 - ➔ 主の一方的な恵みを、ヨナはただ信じて救われた。
- 預言者ヨナは、神の民イスラエルの代表。
ヨナの背きは、イスラエルの背き。ヨナの復活はイスラエルの復活。
 - ➔ ヨナのしるしの時代の最後、イスラエルは復活のメシアを信じ、滅びの淵から救われる。

ヨナの背きと悔い改めが示す、すべての人の救いの道

- 罪と死とは、天地を造られた神との断絶。
最初の人アダムの罪以来、すべての人は罪と死の中にある。
- 神への背きの結果は、避けようのない死。永遠の滅び。
- 救いの道は一つだけ、滅びゆく罪を認め、神との回復を願うこと。
私の罪を負って身代わりに死なれた、メシアに信頼すること。
- 天地を造られた主イエスキリストは、私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。

主への信頼をもって、ヨナの祈りに心をあわせよう!!

ヨナ書 2:1~2

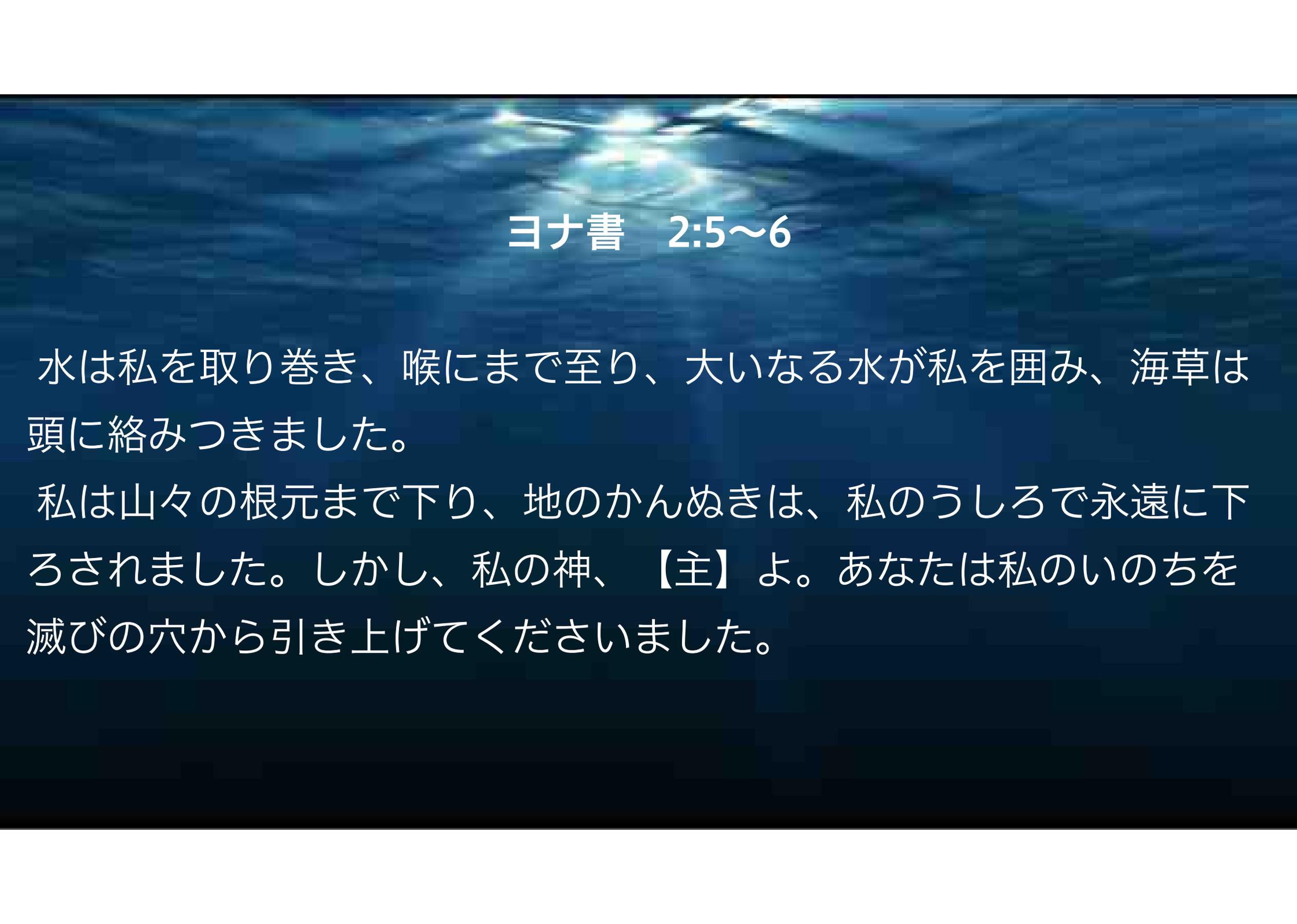
ヨナは魚の腹の中から、自分の神、【主】に祈った。

「苦しみの中から、私は【主】に叫びました。すると主は、私に答えてくださいました。よみの腹から私が叫び求めると、あなたは私の声を聞いてくださいました。

ヨナ書 2:3~4

あなたは私を深いところに、海の真中に投げ込まれました。潮の流れが私を囲み、あなたの波、あなたの大波がみな、私の上を越えて行きました。

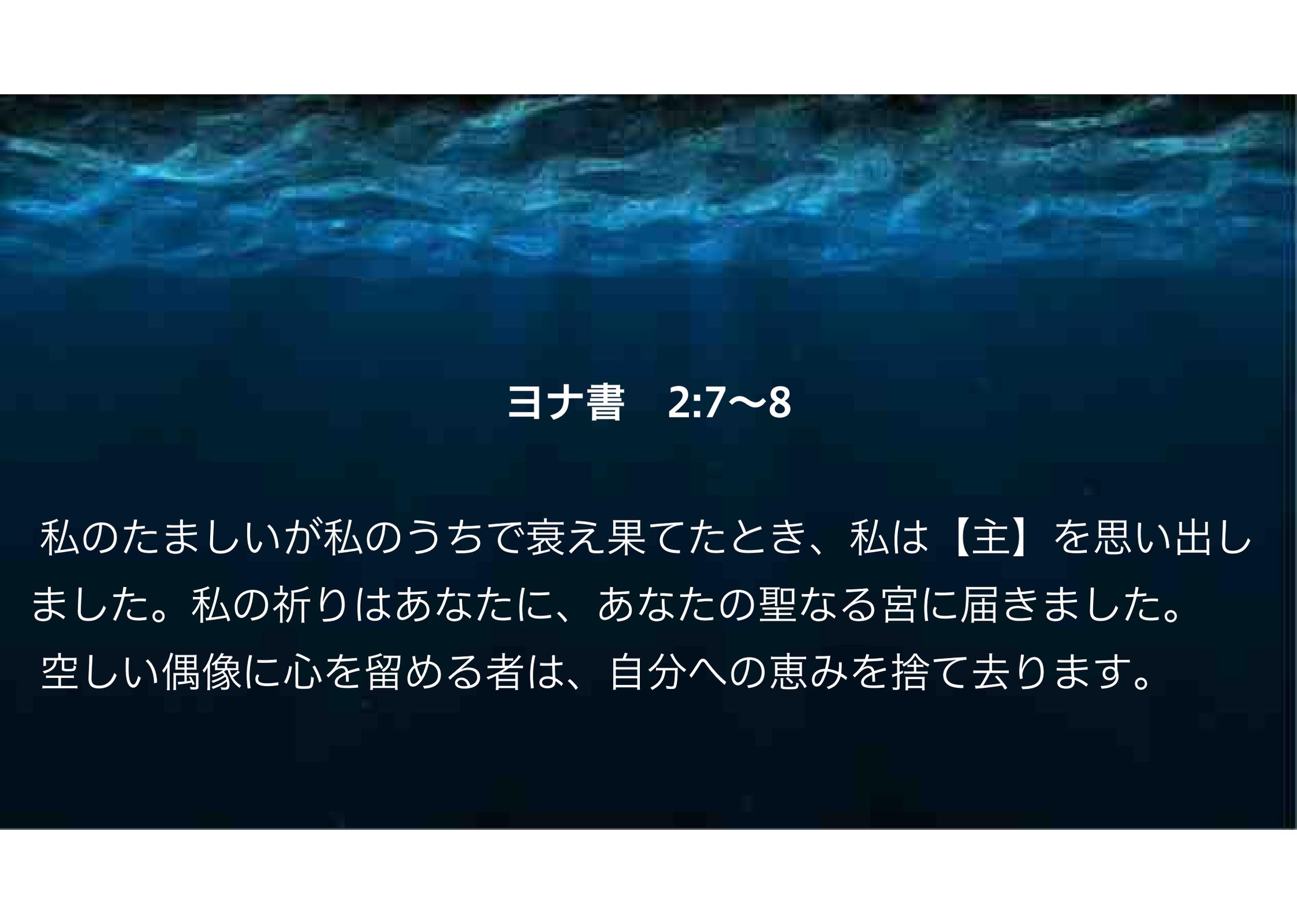
私は言いました。『私は御目の前から追われました。ただ、もう一度、私はあなたの聖なる宮を仰ぎ見たいのです。』



ヨナ書 2:5～6

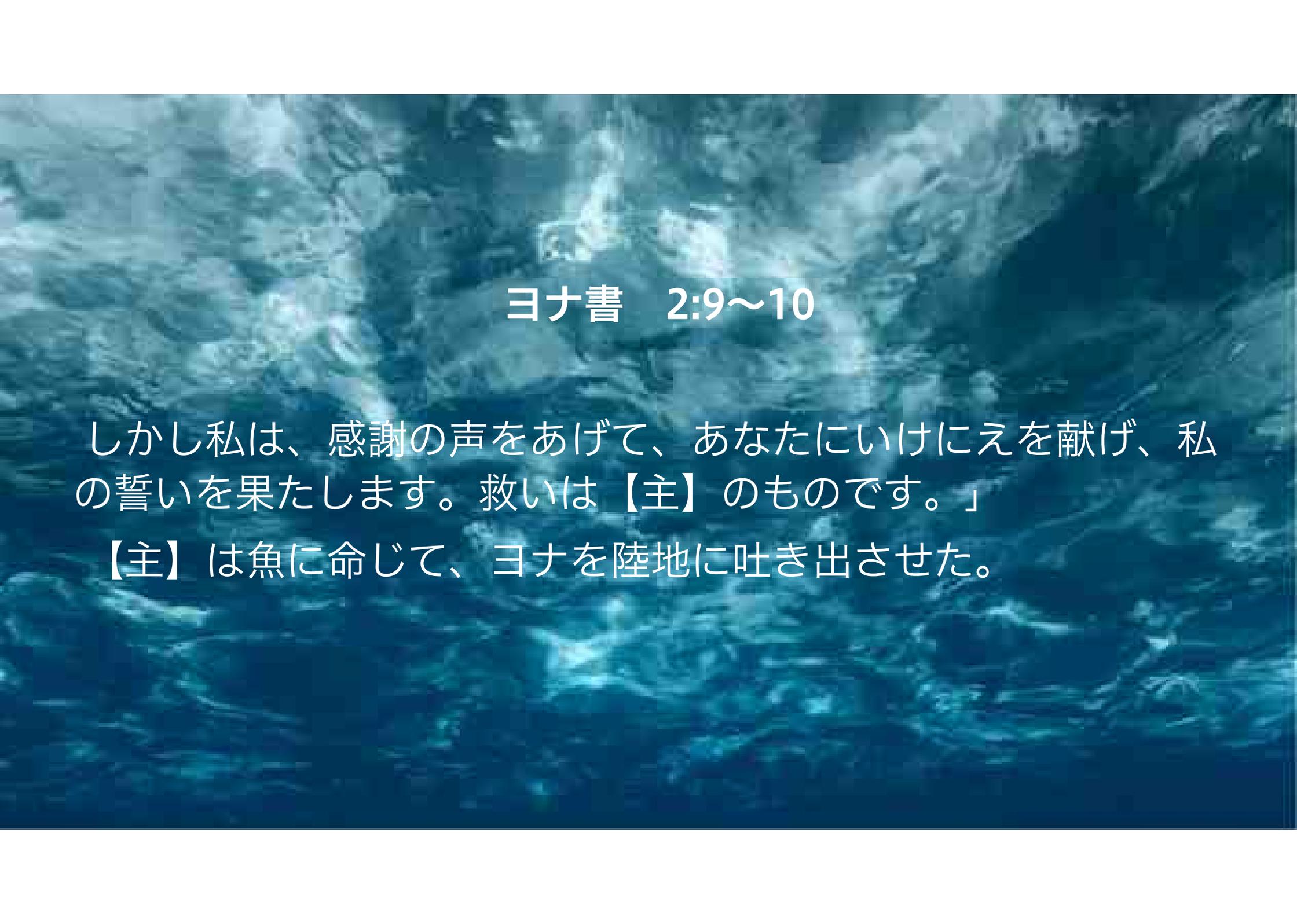
水は私を取り巻き、喉にまで至り、大いなる水が私を囲み、海草は頭に絡みつきました。

私は山々の根元まで下り、地のかんぬきは、私のうしろで永遠に下ろされました。しかし、私の神、【主】よ。あなたは私のいのちを滅びの穴から引き上げてくださいました。



ヨナ書 2:7~8

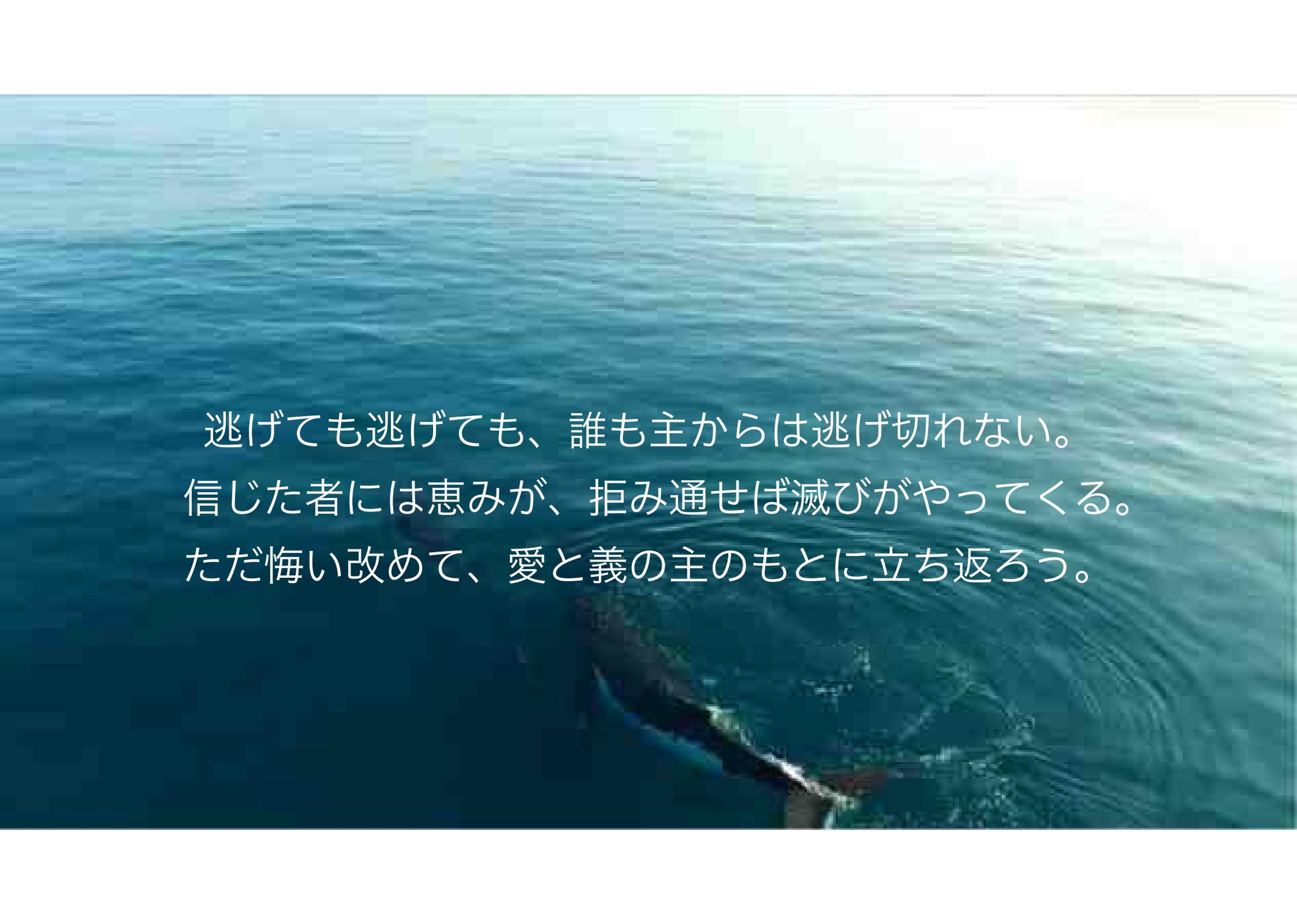
私のたましいが私のうちで衰え果てたとき、私は【主】を思い出しました。私の祈りはあなたに、あなたの聖なる宮に届きました。空しい偶像に心を留める者は、自分への恵みを捨て去ります。



ヨナ書 2:9~10

しかし私は、感謝の声をあげて、あなたにいけにえを献げ、私の誓いを果たします。救いは【主】のものです。」

【主】は魚に命じて、ヨナを陸地に吐き出させた。



逃げても逃げても、誰も主からは逃げ切れない。
信じた者には恵みが、拒み通せば滅びがやってくる。
ただ悔い改めて、愛と義の主のもとに立ち返ろう。

ヨナを戒めとして、信仰者の道を確認しよう

- まぎれもなく主に従う信仰者だったヨナも、神への背きに陥った。
→私を惑わす最大の偶像とは、私の思い、私自身にほかならない。
- ヨナ書は、ヨナの赤裸々な信仰告白。成熟したように見えて、実は未熟さを抱えていたと、誰しも突きつけられる瞬間がある。
- 背きの末に懲らしめを受ける人は幸いだ。主は見捨てていないから。気づかされたその時に、悔い改めて立ち返ろう。
- 救いは主のもの。私の人生もすべて、永遠に主のものだ。

与えられた使命を素直に受けるのが謙遜。果たす力は主から来る!!

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。

わたしは、まぎれもない罪人です。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

熟練した預言者、ヨナすら、背きの罪に陥りました。

信じてなお、不信を抱き、罪を犯す、私がいいます。

告白するなら、主がゆるして、立ち返らせてくださいます。

与えられた使命をへりくだって受け、歩む者と変えてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」